社会科（歴史的分野）学習指導案

日　時　　令和〇年〇月〇日（〇）
　　第５校時
対　象　　第２学年
学校名　　中学校
授業者　　〇〇　〇〇
会　場　　教室

１　単元名　　近世の日本と世界（「中学社会　歴史　未来をひらく」教育出版）

２　単元の目標

・　ヨーロッパ人来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎がつくられたことを理解する。
・　交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。
・　近世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

３　単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　ヨーロッパ人来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎がつくられたことを理解している。	①　交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	①　近世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

４　指導観

⑴　単元観

本単元は、中学校学習指導要領（平成 29 年３月告示）　第２章　第２節　社会　第２　各分野の目標及び内容　歴史的分野　２　内容Ｂの⑶、内容の取扱い⑶ウについて取り扱ったものである。その内容と内容の取扱いについては、次のように示されている。

2　内容

B　近世までの日本とアジア

⑶　近世の日本

課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識を身に付けること。

(ｱ) 世界の動きと統一事業

ヨーロッパ人来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎がつくられたことを理解すること。

(ｲ) 江戸幕府の成立と対外関係

(ｳ) 産業の発達と町人文化

(ｴ) 幕府政治の展開

イ　次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ｱ) 交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、アの(ｱ)から(ｴ)までについて近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現すること。

(ｲ) 近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現すること。

3　内容の取扱い

⑶　内容のＢについては、次のとおり取り扱うものとする。

ウ　⑶のアの(ｱ)の「ヨーロッパ人来航の背景」については、新航路の開拓を中心に取り扱い、その背景となるアジアの交易の状況やムスリム商人などの役割と世界の結び付きに気付かせること。また、宗教改革についても触れること。「織田・豊臣による統一事業」については、検地・刀狩などの政策を取り扱うようにすること。

この中項目では、16 世紀から 19 世紀前半までの歴史を扱い、我が国の近世の特色を、世界の動きとの関連を踏まえて課題を追究したり解決したりする活動を通して学習することをねらいとしている。本単元はヨーロッパ人来航により、対外関係が活発化し、織田・豊臣による統一事業が実行された時期を対象とする。中世社会から近世社会へと移行するこの時期の特色を「①『戦乱の世』から『泰平の世』への転換」、「②太閤検地や兵農分離などによる荘園制の解体と武士身分の確立」、「③対アジア外交に加えて、対ヨーロッパ外交への拡大」、「④織豊政権における旧来の宗教勢力と新興の宗教勢力への対応」と捉える。これらの社会的事象を時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりに着目し、社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。そのことを通して、近世社会の基礎がどのようにつくられたのかを明らかにする。それらの推移や事象相互のつながりに着目するために、本単元を貫く問いとして「下剋上の風潮が広がっていたにもかかわらず、なぜ、16 世紀後半に天下統一が達成されたのだろうか。」を設定する。

本単元は次のように三段階で単元を構成する。第１次では、中世社会末期の「戦乱の世」についての振り返りを行う。そして、「政治」、「対外関係」、「人々の生活・文化」がどのように推移していくのか仮説を立て、学習の見通しをもつ。第２次では、ヨーロッパ人が我が国へと来航した背景をヨーロッパ社会やイスラム世界の変化やこの時代に構築された交易ネットワークに着目して、考察する。第３次では、織豊政権が天下統一を目指す中で実行した各種政策の結果、中世からの脱却が

図られ、近世社会の基礎がつくられていったことを理解する。これらの学習を通して、近世社会への移行期の特色を理解し、次単元の学習につなげる。

最終的に、中単元全体を通してこの時代を大観して、その特色を理解することを目標とする。

⑵　生徒観

本学級の生徒はこれまでに、「B　近世までの日本とアジア」のうち、「⑴　古代までの日本」、「⑵　中世の日本」の学習を終えている。特に中世の日本の学習では、歴史的な見方・考え方を用いて、例えば、武士が台頭していくまでの推移を認識するための教材を用いたり、東アジアにおける交流の様子を古代までの日本の様子と比較しながら特色を理解したりする活動を行った。しかしながら中世の日本について大観することは充分にできておらず、本単元の学習内容と関連付け、中世の日本についての理解を再度、深められるようにする必要がある。社会科の学習方法については分野を問わず、自らの学習を振り返ったり、理解した内容をまとめたりする活動を継続して行っている。その結果、生徒アンケートによれば、８割を超える生徒が見通しをもったり、振り返りを行ったりしながら、学習を進めることができていると実感している。しかしながら、歴史的な見方・考え方を用いて社会的事象を多面的・多角的に考察することができていると回答した生徒が７割程度いる一方、中世の日本について大観することができないとする生徒も６割程度いる。このことについては改善が必要である。

⑶　教材観

本単元では、ヨーロッパ人来航の背景を理解するために、地図を活用しながら地域と地域の結び付きや来航までの経路、南蛮貿易や日本国内での布教活動の様子が分かるようにする。また、絵画資料を用いることによって、生徒の興味・関心を引き出すことができるようにする。授業では、教科書以外に授業者作成のスライド、デジタル・ホワイトボード、ワークシートなどを使用する。スライドで、授業の流れや導入時の資料、ワークシートに掲載した資料や評価規準などを投影している。生徒は、スライドを見ることによって「何をすべきか」、「どの資料を見るべきか」という学習活動を理解することができる。また、デジタル・ホワイトボードを電子黒板に投影することで「誰が、どのような考えをもっているのか」を瞬時に共有できるようになる。「単元見通しシート」は、毎時間の学習内容の振り返りを記述するとともに、自らの思考の変化や深まりを実感するために自己評価も行う。このことにより、学習の見通しや自己の学習状況を客観的に捉えるメタ認知の力が高まると考える。単元見通しシートの記述内容や学習状況の変化を、主体的に学習に取り組む態度の評価につなげる。

５　年間指導計画における位置付け

≪第２学年　歴史的分野：年間 45 単位時間≫

B　近世までの日本とアジア

⑵　中世の日本　　(16 時間)

⑶　近世の日本

(ｱ) 世界の動きと統一事業　　（９時間）・・・本時を含む単元

(ｲ) 江戸幕府の成立と対外関係（６時間）

(ｳ) 産業の発達と町人文化　及び　(ｴ) 幕府の政治の展開　（７時間）

C　近現代の日本と世界

⑴　近代の日本と世界　　（７時間）

６　単元指導計画と評価計画（全８時間）

※評価規準においては，○＝評定に用いる評価　●＝学習改善に用いる評価とする。

単元を見通した問い

「下剋上の風潮が広がっていたにもかかわらず、なぜ、16 世紀後半に天下統一が達成されたのだろうか。」

次	時	目標	○学習内容　・学習活動	評価規準(評価方法)
第１次		学習課題 中世末期の状況に対して、どのような新しい世の中をつくることが求められたのだろうか。		
	第１時	中世末期の社会状況を振り返り、その後の推移を予測する。	○　中世からの変化 ・　中世末期の社会状況を足軽の誕生や一向一揆の発生などに着目して理解し、社会状況の推移を予測する。	●ウ－① （単元見通しシート）
		【活用する歴史的な見方・考え方】諸事象の推移に関わる視点「展開」、「変化」、「継続」		
第２次		学習課題 遠く離れた「極東」に位置しているにもかかわらず、なぜ、ヨーロッパの人々は、日本に来航したのか。		
	第１時	中世のヨーロッパ世界とイスラム世界の変化の様子を理解する。	○　中世のヨーロッパ世界とイスラム世界の変化 ・　カトリック教会の影響力拡大からヨーロッパ世界の様子を読み取る。 ・　政治基盤構築や文化の発達からイスラム世界の変化を読み取る。	○ア－① （ペーパーテスト） ●ウ－① （単元見通しシート）
	第２時	14 世紀から 16 世紀までのヨーロッパ社会の変化の様子とイスラム世界の拡大の様子を理解する。	○　14世紀から16世紀までのヨーロッパ世界の変化とイスラム世界の拡大 ・　14世紀以降、ヨーロッパ世界においてルネサンスや宗教改革を背景として、カトリック教会の権威が低下したことを絵画資料などから読み取る。 ・　イスラム教国の拡大に伴い、イスラムの商人を中心として、アジアとヨーロッパを結ぶ貿易ネットワーク築かれたことを地図資料などから読み取る。	○ア－① （ペーパーテスト） ●ウ－① （単元見通しシート）
	第３	15世紀後半以降、ヨーロッパ諸国の世界進出が活発化していっ	○　ヨーロッパ諸国の世界進出 ・　15世紀後半以降、ヨーロッパ諸国の世界進出が活発化した要因をカトリック教会の権威低下やイスラムの商人による交易	○イ―① （ワークシート） ●ウ－① （単元見通しシート）

	時	た要因を考察し、表現する。	網拡大、日本で産出される銀の存在と関連付けて考察、表現する。	
	【活用する歴史的な見方・考え方】事象相互のつながりに関わる視点「背景」			
	学習課題 「南蛮人」は未知の存在であるにもかかわらず、なぜ、各地の大名や人々に受け入れられたのだろうか。			
	第4時	ヨーロッパ人の来航が我が国に与えた影響を多面的･多角的に考察し、表現する。	○　ヨーロッパ人の来航が我が国に与えた影響 ・　西日本に設立されたカトリック教会の分布地図や新たにもたらされた文物などを参考にし、ヨーロッパ人来航が我が国に与えた影響を、資料を基に多面的・多角的に考察し、表現する。	●イ―① （単元見通しシート） ●ウ－① （単元見通しシート）
	【活用する歴史的な見方・考え方】事象相互のつながりに関わる視点「影響」			
第3次	学習課題 下剋上の風潮が広がっていたにもかかわらず、なぜ、16 世紀後半に天下統一が達成されたのだろうか。			
	第5時	織田･豊臣による統一事業の目的を多面的･多角的に考察し､表現する。	○　織田・豊臣による統一事業 ・　戦国大名だけではなく、公家や商人、寺院など中世社会において力をもっていた勢力を制限するために、統一事業が行われたことを、資料を基に多面的・多角的に考察し、表現する。	○イ―① （ワークシート） ●ウ－① （単元見通しシート）
	第6時	豊臣秀吉による民衆支配や対外戦略の目的を理解する。	○　豊臣秀吉の政治 ・　太閤検地や兵農分離などの諸政策が近世社会の土台となっていくことを資料から読み取り、理解する。また、キリスト教への対応から対外戦略の目的を読み取る。	○ア－① （ペーパーテスト） ●ウ－① （単元見通しシート）
	【活用する歴史的な見方・考え方】事象相互のつながりに関わる視点「背景」、「原因」、「結果」			
	学習課題 豊臣政権は天下統一を成し遂げたにもかかわらず、なぜ、長期政権とならなかったのか。			
	第7時・本時	「泰平の世」を実現するための方策を追究する。	○　近世社会の基礎 ・　豊臣政権の諸政策を評価する。そこから、長期政権となることができなかった要因を考察する。そのことを通して、泰平の世を実現するために必要な事柄を追究し、根拠を示しながらまとめる。	●イ－① （ワークシート） ○ウ－① （ワークシート） ●ウ－① （単元見通しシート）
	【活用する歴史的な見方・考え方】 歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する「構想」			

	学習課題 この時代の文化の形成に影響を与えているものは何だろうか。		
第8時	文化の特色に影響を与えたものを考察する。	○　南蛮文化と桃山文化 ・　南蛮文化と桃山文化の絵画や文物などを基に、それらの物が生み出された背景をこれまでの学習内容と関連付け、考察する。	●イー① （単元見通しシート）
	【活用する歴史的な見方・考え方】事象相互のつながりに関わる視点「結果」		

7　指導に当たって

⑴　班テーマとの関連について

中学校１班では、第１期の班テーマを「主体的な学びの視点で、自らの授業実践を振り返る」、第２期の班テーマを「主体的な学びの獲得を目指した、単元を貫く問いの精査」、第３期の班テーマを「深い学びを促す、問いの精査」と設定し、授業実践に取り組んできた。この２年間、一貫して「問い」についての追究を行った。その結果として、次のように問いの型を整理する。まず、個別的事象を理解するための問いを設け、次に、個別的知識を概念化するための問いを設定し、生徒がそれらを追究する中で、多面的・多角的な考察し、表現する。思考力、判断力、表現力等の向上を目指す。その後、価値判断を迫る問いを設けることで、生徒の学びに対する切実性と主体性をもたせる。

このようなサイクルを通して、「資質・能力の向上」と「深い学び」が実現することを目指す。

⑵　「単元見通しシート」と「思考ツール」の活用について

主体的な学びを支援するための方策として、「単元見通しシート」を用いる。また、深い学びを支援するために、ベン図やウェビングマップなど個人の考えを一つの図中に書き込み、それを他者と共有し検討するような思考ツールを活用する。

8　本時（全８時間中の第７時）

⑴　本時の目標

「泰平の世」を実現するための方策を追究する。

⑵　本時の展開

時間	○学習内容　・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準(評価方法)
導入5分	○　前時の振り返り ・　「単元見通しシート」をもとに前時の学習内容を全体で共有する。 ○　本時の学習課題の確認 ・　豊臣政権と徳川政権の政権担当期間を比較し、学習課題を確認する。	・　数名の生徒を指名し、全体共有をする。	
	学習課題（個別的事象を概念化するための問い） 豊臣政権は天下統一を成し遂げたにもかかわらず、なぜ、長期政権とならなかったのか。		

展開 30分	○　織豊政権の成果と課題 ・　「豊臣秀吉死後、政権を奪取し、長期政権を樹立したい。」という要望に徳川家康の家臣という立場で応える。その際、織豊政権から継続して取り組む政策と新たに取り組む必要があるものを考える。個人で考え、班で共有した後、全体で共有する。	・　織豊政権の統一事業を振り返り、中世との変化やこの時代の人々への影響などに注目しながら進言を考えられるように指導する。	●イ－① （ワークシート）
まとめ 15分	**価値判断を迫る問い** **長期政権を樹立するためにはどのような政策が必要になるのだろうか。**		
	○　近世社会の基礎 ・　「泰平の世」を実現するための方策を個人で追究する。	・　展開①の学習活動を基に考えるように指導をする。安定した社会を維持するためには、武力による支配のみならず、経済政策、外交政策、宗教政策など多岐にわたる取組が必要となることを、この課題を通して気付くことができるよう指導する。また、そのことは現在の社会にもつながるものであることを踏まえ、公民的分野での指導を視野に入れた指導を行う。	○ウ－① （ワークシート） B評価 ：長期政権を樹立するための具体的な方策を考えることができている。 A評価 ：B評価に加えて、現在の社会とのつながりを考えることができている。
	○　本時の振り返り ・　本時の学習課題についてのまとめを記述する。	・　生徒の記述内容から学習状況を確認する。	●ウ－① （単元見通しシート）

⑶　板書計画

1／13　近世⑦

学習課題　豊臣政権は天下統一を成し遂げたにもかかわらず、なぜ、長期政権とならなかったのか。

1　豊臣政権の諸政策

○大名統制 惣無事令	○経済基盤 鉱山支配 太閤検地
○民衆統治 刀狩　　兵農分離	○外交政策 宣教師国外追放 貿易活発化　　朝鮮出兵

2　江戸幕府＝徳川政権
約 260 年

⑷　授業観察の視点

ア　本時の学習内容は、本時の目標及び単元の目標を達成する上で適切なものであったか。

イ　本時の学習課題は、生徒の学習に対する切実性（知りたい・追究したい・共有したい）を促すものであったか。

ウ　本時の学習内容は、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現するものであったか。